

地誌 第42回「日本地誌(4) 日本の鉱工業」

○今回のポイント

日本は知識集約型工業。  
脱工業化社会な成熟国であり、経済のサービス化が進んで、第三次産業が中心。

日本の工業の発達

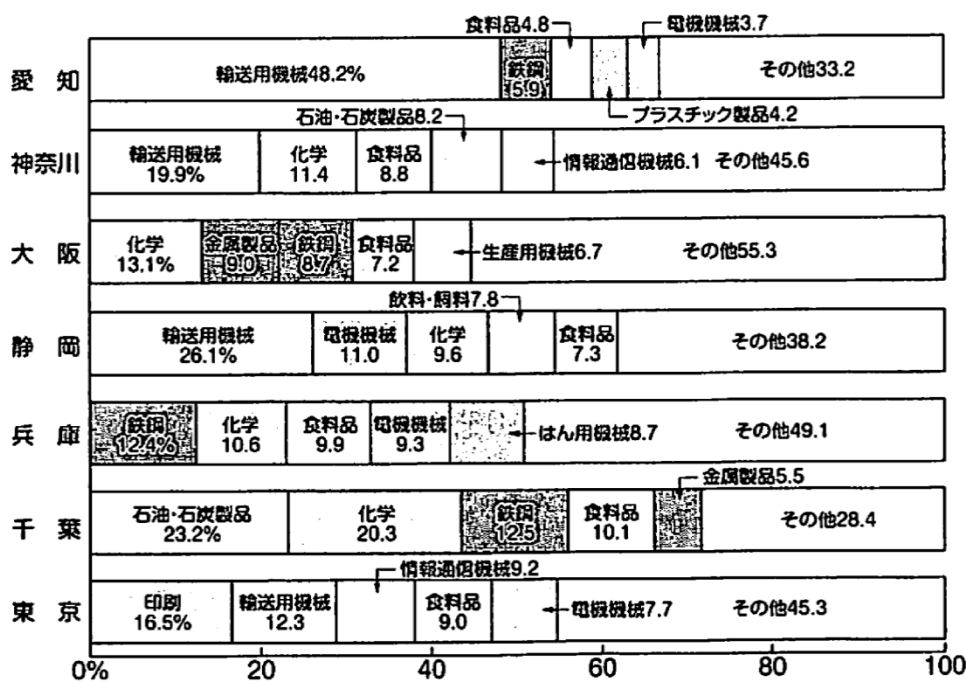
- (1)第二次世界大戦以前…[① 繊維]などの軽工業が中心。
- (2)高度経済成長期…鉄鋼業や石油化学工業などの[② 重化学工業化]。
- (3)石油危機以降…自動車や電気機械などの[③ 機械工業]などが中心
- (4)現在…研究開発に力を入れる[④ 知識集約型産業]、先端技術産業が中心。

日本企業の海外進出

<p>(1)[⑤ 製造コスト]を削減するため、低賃金労働力を求めて海外進出する。</p> <p>○生産に多くの[⑥ 労働力]を必要とする繊維工業や電気機械工業などの分野。アジア NIES、ASEAN、社会主義アジア(中国、ベトナム)、ミャンマー・アフリカ</p>	<p>(2)[⑦ 貿易摩擦]を緩和するために、海外での現地生産を行う。</p> <p>○1980年代から進んだ日本の自動車工業のアメリカへの進出 ⇒現地生産を行うことで、現地の住民を労働者として雇用し、現地で製造された部品を使い、貿易摩擦の緩和を図る。</p>	<p>(3)市場としての[⑧ 販売拠点]の確保のため海外進出を行う。</p> <p>○経済成長が進んだ中国や東南アジアで国内市場が拡大しているために、日本の製品を売りつけようと進出。</p>
---	--	---

企業が海外に生産拠点を移し、国内産業は衰退していく[⑨ 産業の空洞化]

都道府県別製造品出荷額



- (1)愛知・神奈川・静岡…[⑩ 輸送機械製品]が出荷額1位  
※愛知はトヨタ  
神奈川はニッサン  
静岡はスズキ・ヤマハ
- (2)東京都…[⑪ 印刷業]が出荷額1位  
※大都市の行政・政治・サービス・教育機関は巨大な市場であるとともに情報源！  
※東京は製造品出荷額が低下
- (3)千葉県…石油・石油製品、化学、鉄鋼  
※原料の大部分を海外から輸入するため、港湾が整備されていて大市場に近い[⑫ 臨海部]に立地。

日本のエネルギー

(1)エネルギー源

☆1960年代の[13 エネルギー革命]により、石炭から石油へ転換

日本国の石炭、原油、天然ガスの輸入相手先

石炭 184,560 (千t)	ロシア		カナダ	
	オーストラリア 63.7%	インドネシア 18.3	5.8	5.7 その他 6.5
原油 214,618 (千KL)	サウジアラビア 30.3%	アラブ首長国連邦 20.6	カタール 11.8	イラン 9.8 その他 27.5
液化天然ガス 70,008 (千t)	マレーシア 19.9%	オーストラリア 19.0	インドネシア 18.9	カタール 10.9 その他 31.9

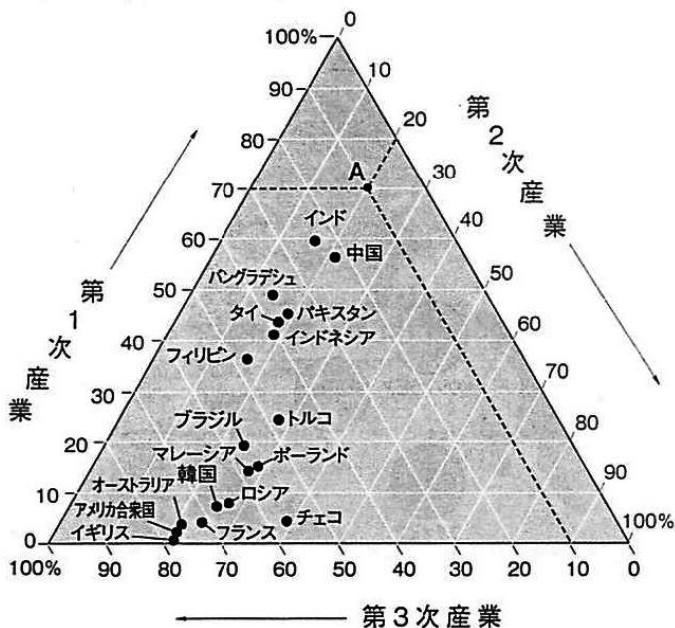
統計年次は2010年。「日本国勢図会2011/12」による

石炭は、火力発電所の燃料や鉄鋼業のコークスとして利用されます。日本が世界最大の輸入国となっており、輸入量の約6割がオーストラリアからのものとなっています。原油は、日本はアメリカ合衆国、中国につぐ輸入国となっており、輸入量の8割以上をサウジアラビアやアラブ首長国連邦などの中東地域に依存しています。天然ガスは、マレーシアやオーストラリアなどから主に輸入されます。

(2)電力

- ・戦前～高度経済成長期まで…豊富な水資源をいかして[14 水力発電]が中心
- ・1960年代前半～…高度経済成長に電力消費量が増大し、需要を賄えなくなったので[15 火力発電]
- ・1970年代～…石油危機により石炭・天然ガスの火力発電、[16 原子力発電]が増加。
- ・2011年～…東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故の影響で、原子力発電がストップ。

産業別人口構成



年	第1次産業	第2次産業	第3次産業
1920	54.9%	20.9%	24.2%
1950	48.6	21.8	29.6
1960	32.7	29.1	38.2
1970	19.3	34.1	46.6
1980	10.9	33.6	55.5
1990	7.2	33.5	59.3
2000	5.1	29.8	65.1
2008	4.2	27.2	68.6

(1)戦前～

- ・[17 農業]が日本の経済の中心

(2)高度経済成長～

- ・工業が発展し[18 第二次産業]が伸びる

(3)石油ショック以降～

- ・[19 経済のサービス化]が起り、産業の空洞化が進んだため、[20 第三次産業]が中心となる。

三角グラフの読み取りで迷ったら紙を回転させよう。読み取りたい指標が左側に来るようにすると、簡単に読み取れるぞ！！